



こんにちは。安井レイコです。

料理研究家・エッセイストとして、企業の方々、メディア関係者、フリーランサー、サラリーマン、学生、主婦といった多様な方々と、食を共にした中で得た「成功と出世の糸口」をこの事務所通信をお読みの皆様だけにお伝えいたします。

## 【夫婦揃って接待ホリデー】

いつもは「接待される側」が多いのですが、先日、ある企業の社長を接待することになりました。誰もが知っている大きな会社の社長ですので、私がお接待できる範囲のレストランなど、もう飽きるほど行っていらっしゃるだろう・・・と、場所選びには悩んでしまいました。そして、ふと思いついて、「ご夫婦でお出かけになりませんか？」とお誘いしてみました。私の主人と相手の社長の奥様含めて4人のダブルデート。海外などではよくありますが、日本ではほとんど見かけないパターンです。

「この年になると、夫婦で出かけるのは恥ずかしい」と断られるかと思いましたが、意外に喜んで受けていただけました。ご夫婦で出かけやすい日曜日の夕方早めの時間にセッティングをして、ご家族へのお土産も用意しました。おもてなしをしたのはごく普通の個室の和食でしたが、奥様は四季折々を盛り込んだ懐石を大変喜んでくださって、ご主人である社長もその様子を見ながらとても嬉しそうでした。聞けば、ご主人は日ごろから接待が多く夜も遅いため一緒に夕食が取れず、土日ゴルフでなかなか二人で出掛けることがないとのこと。久しぶりの休日のお出掛けを大変楽しんだと伺い、また、奥様の仕事や趣味の話で場もおおいに盛り上がりました。



日本では、会社同士の付き合いということで、パートナー（夫婦）といえども会社以外の方が仕事に関わってくることは少ないように思います。特に男性同士ですと、食事だけではなく女性を介したバーなどの二次会にも遠慮なく誘えますから、女性の存在が煩わしく思えることもあるでしょう。

けれど最近では、次の日に差し支えるほどの深酒になるような接待を好ましくなく思っている社長も多く、また、女性の社会進出もあって異性の方を接待しなければならない場も増えていると思います。

そのようなときには、思い切ってパートナーを連れての接待はいかがでしょう。ダブルデートだけではなく、数組の夫婦が集まってのパーティもよいと思います。

先日、イタリアのヴェローナで野外オペラを観る機会がありましたが、女性はイブニングドレス、男性はタキシードで必ずパートナー同士。さりげなく椅子を引いたり、コートを羽織らせたり・・・そのスマートなしぐさにオペラを観る前からうっとりしてしまいました。

うちの夫は、「レディーファーストよりも、女性を敵前から守る日本の作法の方がいい」と言って、人前では私の三歩前を歩きますが、まあ、それはそれで日本らしくてよいのではとも思います。

海外ではいつも日本でやっているように、目上の男性に先に歩いてもらったり、エレベーターの戸口で譲って差し上げると、「日本の女性は、やさしくて控えめで So sweet!」と褒められますしね（笑）。

ただ、レディーファーストでも三歩後ろでもよいのですが、たまには夫婦揃って接待できるよう、パートナーとはよい関係を保たなくては・・・と、自分で自分のハードルを上げてしまった結論でした。